

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方
に関する検討会議

(第2回)

日時：平成29年11月8日(水)

10:00～11:30

会場：岩手県公会堂 21号室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケートの結果について

(2) 県外からの志願者の受入れのあり方について

4 そ の 他

5 閉 会

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議 設置要綱

(設置)

第1 新たな県立高等学校再編計画の推進に当たり、ふるさと振興の観点等から学校の魅力づくりを推進する地域の取組を踏まえ、生徒の多様な受入れのあり方について検討するため、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議(以下「会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2 会議は、次の事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に報告する。

- (1) 県外からの入学志願者の受入れのあり方に関する事
- (2) 現状と課題を踏まえた通学区域のあり方に関する事
- (3) その他定員を充足するためのあり方に関する事

(組織等)

第3 会議は、委員15名以内をもって組織する。

2 会議の委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育関係団体の役職員
- (3) 市町村教育長
- (4) 産業関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

(任期)

第4 委員の任期は、第2に掲げる検討が終了するまでとする。

2 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 会議に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第6 会議は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7 会議の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校調整課において処理する。

(補則)

第8 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年4月24日から施行する。

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議

委員名簿

(50音順)

氏名	所属・職名等	備考
阿部 徹	岩手県立盛岡工業高等学校長	
五十嵐 のぶ代	岩手県PTA連合会 会長	
伊藤 晃二	宮古市教育委員会 教育長	
金田 一文紀	岩手県教職員組合 書記長	
久慈 竜也	株式会社久慈設計 代表取締役社長 岩手県産業教育振興会 理事	
佐々木 秀市	岩手県高等学校教職員組合 書記長	
高橋 清之	盛岡市立下橋中学校長 岩手県中学校長会 会長	
田代 高章	岩手大学教育学部 教授	
千葉 祐悦	金ヶ崎町教育委員会 教育長	
土川 敦	岩手県立一関第一高等学校長 岩手県高等学校長協会 副会長	
渡辺 正和	岩手県高等学校PTA連合会 会長	

事務局

所 属 ・ 役 職	氏 名
教育長	高 橋 嘉 行
教育次長	岩 井 昭
学校教育課 首席指導主事兼総括課長	中 島 新
学校調整課 総括課長	小 久 保 智 史
学校教育課 首席指導主事兼高校教育課長	佐 藤 有
学校調整課 高校改革課長	藤 澤 良 志
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	中 村 智 和
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	亀 山 丈
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	佐 藤 守
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	上 野 光 久
学校調整課 高校改革担当 主任指導主事	村 山 薫 美
学校調整課 高校改革担当 主査	梅 澤 貴 次
学校調整課 高校改革担当 指導主事	宇 夫 方 聰
学校調整課 高校改革担当 指導主事	市 丸 成 彦

平成 29 年度

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート

〔平成 29 年 8 月実施〕

I	アンケート調査の概要	1
II	アンケート結果	2

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、県外からの志願者の受入れと通学区域（学区）についての考えを把握するために実施し、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議における検討の参考に資することを目的とする。

2 実施時期

平成 29 年 8 月 17 日（木）～9 月 8 日（金）

3 調査の内容

県外からの志願者の受入れ及び通学区域のあり方等

4 調査の対象

- (1) 県内全ての公立中学校長、義務教育学校長、県立高等学校長
- (2) 県内全ての公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校の P T A 会長

5 送付書類

- (1) 対象者へ県教委からアンケート用紙、回答用紙を送付
- (2) アンケート実施後、回答用紙を県教委へ送付
- (3) 県教委で集計・分析

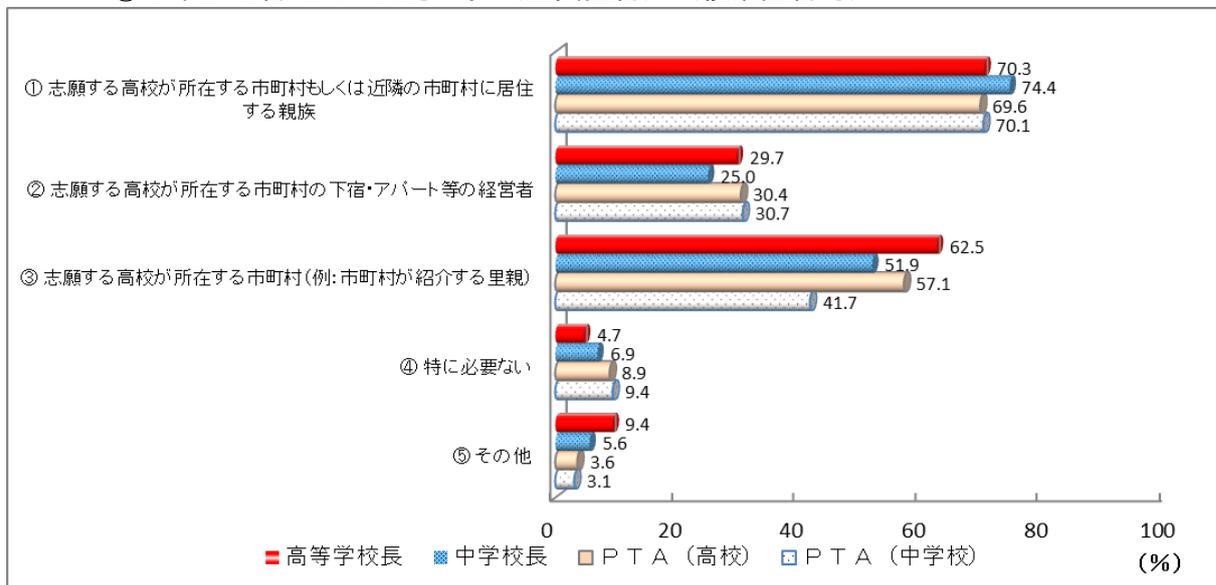
6 回答用紙の提出について

	対象者数	回収数	回収率
県立高等学校長	64	64	100.0%
公立中学校長	160	160	100.0%
P T A 会長（高校）	64	57	89.1%
P T A 会長（中学校）	161	126	78.3%
県全体	449	407	90.6%

Ⅱ アンケート結果

1 県外からの志願者の受入れについて

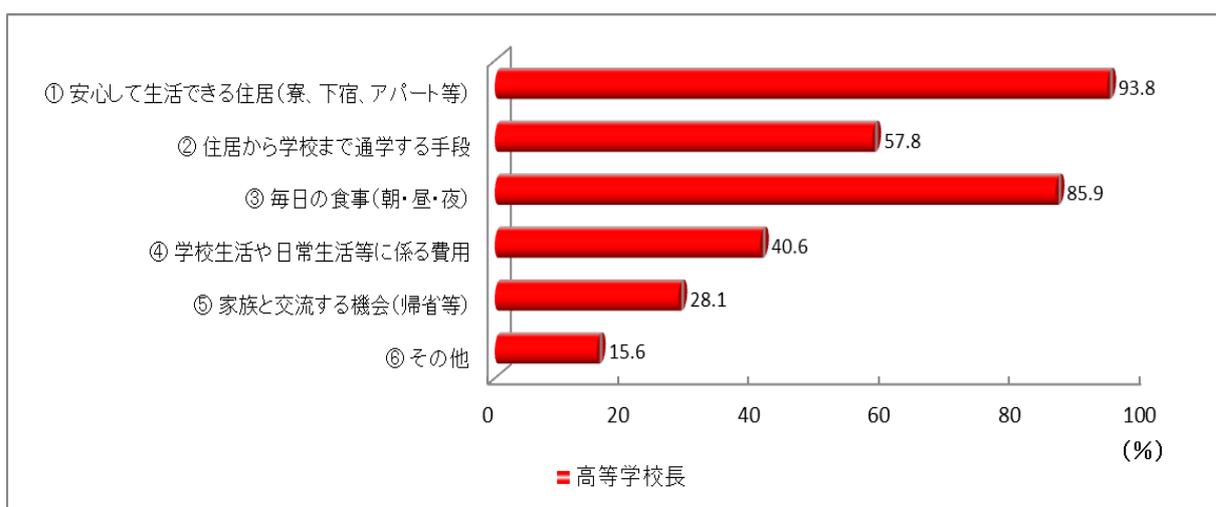
質問① 保護者に代わり志願者を保護する者の条件として、適当と考えられるものを、①～⑤の中から教えてください。（全員回答）（複数回答可）



すべての対象において「①志願する高校が所在する市町村もしくは近隣の市町村に居住する親族」が最も多い。

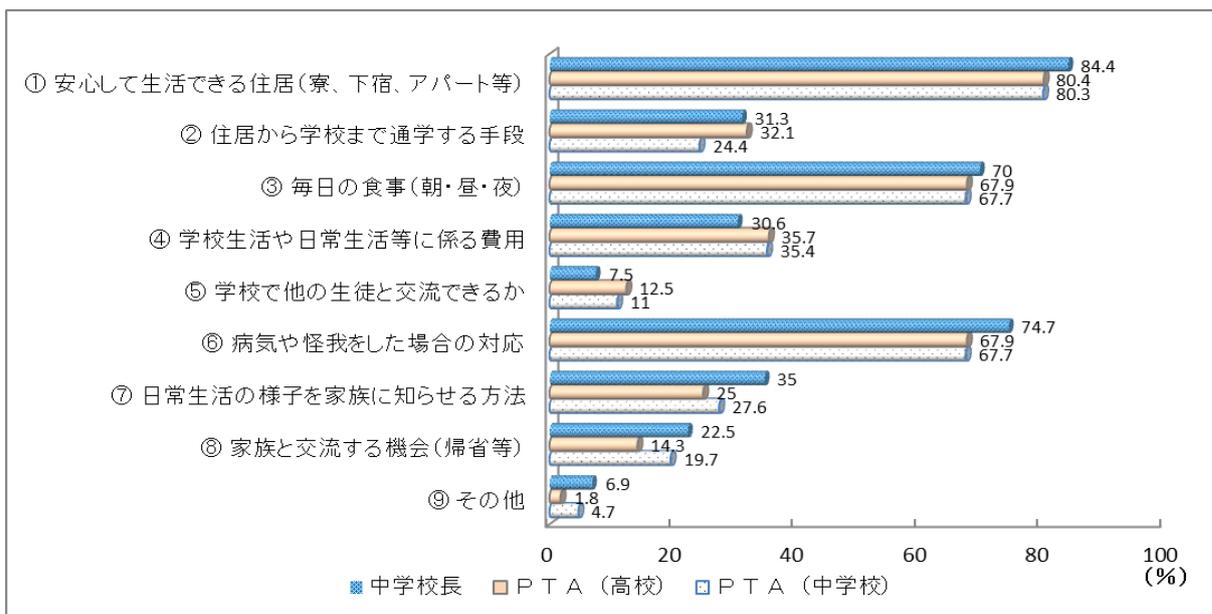
また、すべての対象において「④特に必要ない」の割合は少なく、志願者を保護する者には一定の条件が必要と考える傾向が強い。

質問② 県外からの志願を認める場合、どのような環境が必要と考えますか。①～⑥の中から教えてください。（高等学校長）（複数回答可）



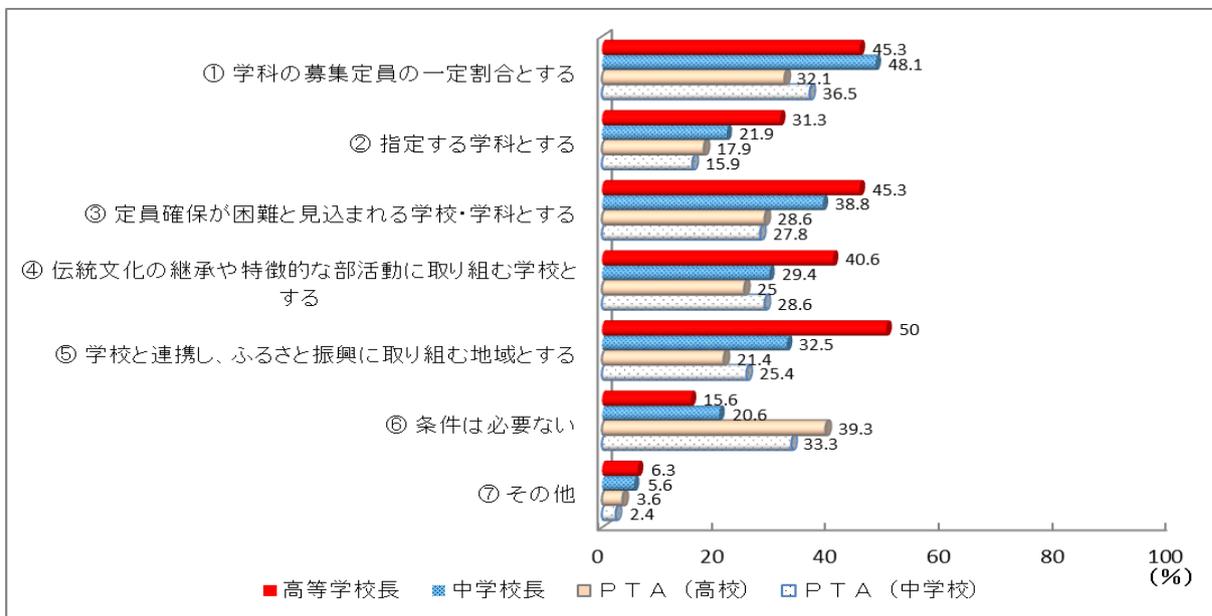
高等学校長では、「①安心して生活できる住居」が93.8%、「③毎日の食事」が85.9%と多く、安心して生活できる環境が重要と考えている。

質問③ 県外からの志願を認める場合、心配されることとしてどのようなことが考えられますか。①～⑨の中から答えてください。（中学校長、PTA会長）



質問②の高等学校長の回答同様、「①安心して生活できる住居」、「③毎日の食事」「⑥病気や怪我」について心配する回答が多く、安心して生活できる環境が重要と考えている。

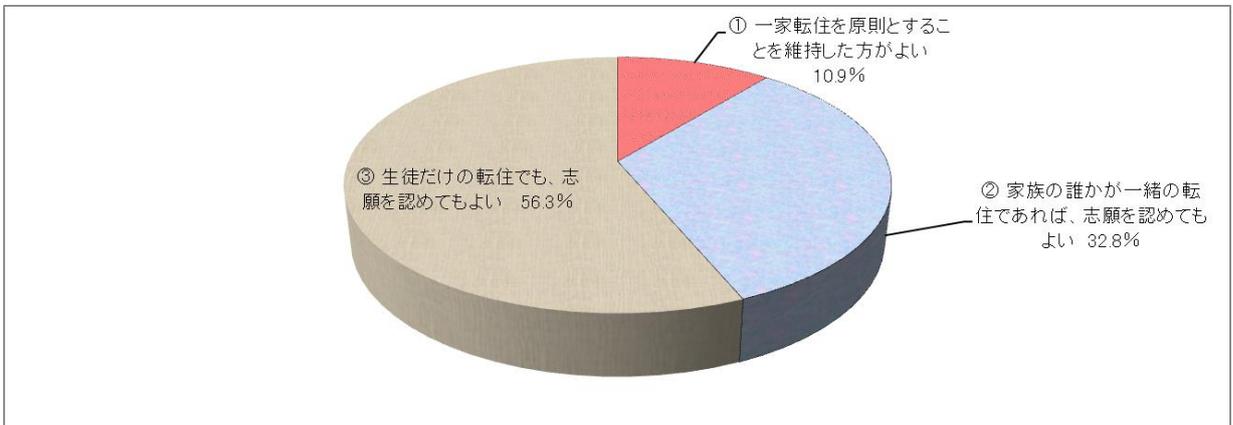
質問④ 県外からの志願を認める条件としてどのようなことが考えられますか。①～⑦の中から答えてください。（全員回答）（複数回答可）



①～⑤のすべての条件において、高等学校長及び中学校長は必要と回答する割合が多い。その反面、PTA（高校・中学校）では、「⑥条件は必要ない」の割合が多いことから、条件の必要性については、学校と保護者の考えに違いが見られる。
 高等学校長では「⑤学校と連携し、ふるさと振興に取り組む地域」（50.0%）が最も多く、次いで「①学科の募集定員の一定割合」（45.3%）、「定員確保が困難と見込まれる学校・学科」（45.3%）となっている。

〔質問⑤、質問⑥については、現在勤務する高校の校長の立場で回答を求めたものです。〕

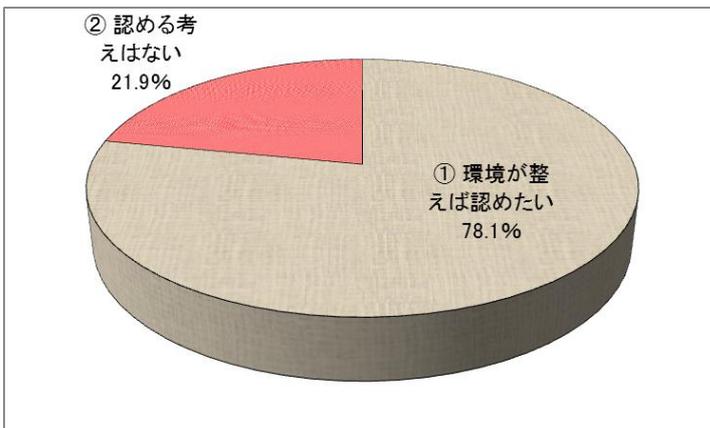
質問⑤ 現在、県外から県立高等学校への志願については、原則として保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由がある場合に限られています、これについて、どのように考えますか、①～③の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（高等学校長）



高等学校長では、「③生徒だけの転住でも、志願を認めてもよい」が 56.3%と最も多く、県外からの志願条件である「①一家転住を原則とすることを維持した方がよい」は 10.9%と低い割合となっている。

県外からの志願を認める場合は、一家転住を原則とする必要がないと考える傾向が強い。

質問⑥ 県外からの志願を認めることについて、どのように考えますか。①、②のいずれか1つを選び、数字で教えてください。（高等学校長）

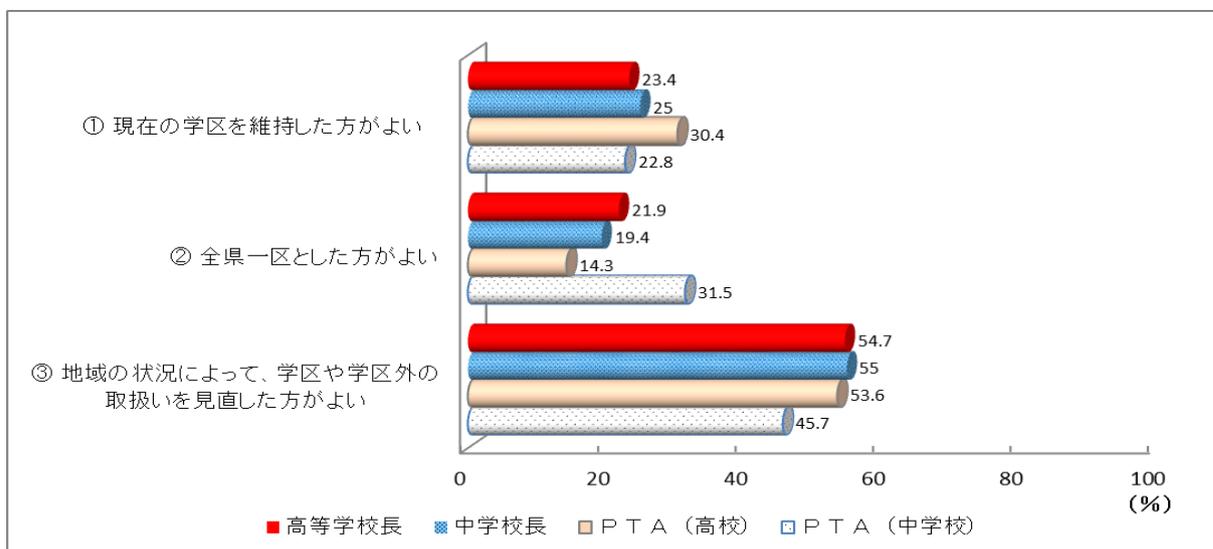


高等学校長では「①環境が整えば認めたい」が 78.1%であり、「②認める考えはない」(21.9%)を大きく上回っている。

認める場合の環境については質問②、条件については質問④の回答に関連があり、受入れ環境や条件が整えば認めたいと考える傾向が伺える。

2 通学区域（学区）について

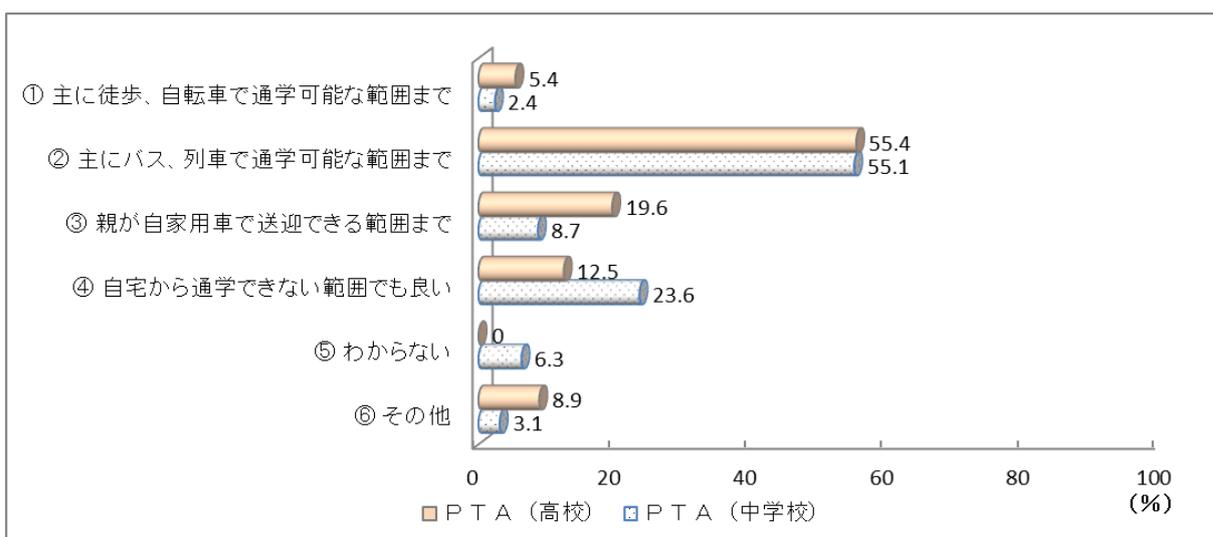
質問⑦ 現在、全日制課程普通科（一部の学系、コースを除く）に設けている学区について、どのように考えますか。①～③の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（全員回答）



すべての対象において、「③地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい」が多く、具体的には内陸部以外の高校の生徒募集に配慮が必要とする考えが多い。

P T A（中学校）では、「②全県一区とした方がよい」も 30%以上となっており、理由としては公平な高校選択の機会を望むこと等がある。

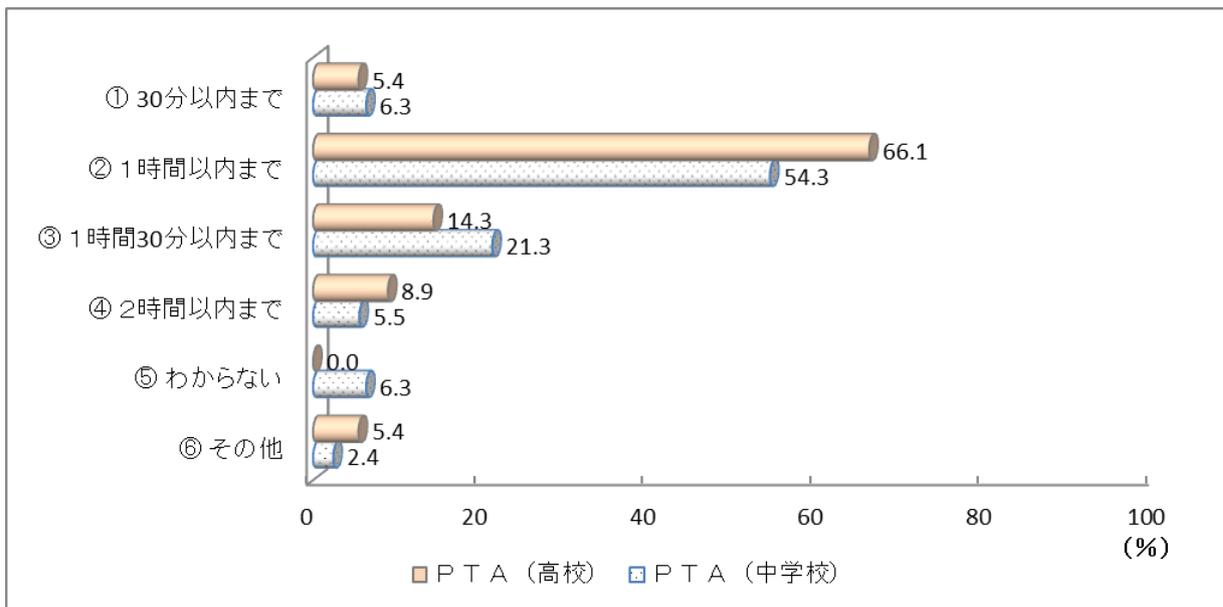
質問⑧ 高校への通学の範囲について、どの程度までが良いと考えますか。①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（P T A会長）



高校・中学校のP T Aともに、「②主にバス、列車で通学可能な範囲まで」と回答する割合が大きく、公共交通機関で通学できる範囲と考えている。

中学校のP T Aでは、「④自宅から通学できない範囲でもよい」が 23.6%であり、子どもが希望する高校への進学を優先する考えが多い。

質問⑨ 通学（片道）にかけても良いと思う時間をどの程度までと考えますか。①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（PTA会長）



高校・中学校のPTAともに、「②1時間以内まで」の割合が大きく、半数以上を占めている。

第1回検討会議においては、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方の論点をお示しし、概ね了解いただきました。

今回は、県外からの志願者の受入れのあり方を取り上げ、1の県内の生徒の学ぶ機会の確保、2の地域の将来を担う人材の確保については、現状、課題等について整理しました。また、3の今後の方向性では、市町村教育委員会等との意見交換、県内の高校及び中学校関係者へのアンケートの結果を踏まえ、県外からの志願者の受入れの効果、課題、課題への対応等について、県教育委員会として捉えていることを示しており、これを基本に議論を深めていただくものです。

県外からの志願者の受入れのあり方について

1 県内の生徒の学ぶ機会の確保

本県の入学者選抜は、推薦入学者選抜（以下「推薦入試」という。）、一般入学者選抜（以下「一般入試」という。）に分かれている。また、募集定員を満たさなかった学校では、二次募集を実施する場合もある。

推薦入試は、岩手県内の生徒に応募資格があり、各校の各学科で定員の10%以内*を募集定員として実施している。

一般入試は、岩手県内の生徒、「県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定」（以下「隣接協定」という。）（青森県、秋田県、宮城県の3県）を結ぶ地域の生徒に応募資格があり、併せて、原則として保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由がある場合に限り県外からの志願を認めている。

推薦入試では応募資格が県内生徒であること、一般入試では、隣接協定を結ぶ地域以外の県外からの出願について一定の要件を設けていること等から、県内中学生の受検の機会は確保されている状況にある。個々の状況を見ると、推薦入試では一部の高校で2倍を超える志願倍率となる一方で、募集定員を満たしていない、あるいは志願者がいない学校もある。（平均志願倍率：H27-0.86倍 H28-0.95倍 H29-0.92倍）また、一般入試でも、都市部の一部の高校を除き、志願者が募集定員に満たない高校が多い状況にある。（平均志願倍率：H27-0.93倍 H28-0.94倍 H29-0.92倍）

少子化による中学校卒業予定者数の減少や、中学生の進路の多様化等に伴い、志願者数が募集定員を満たしていない高校が所在する地域では、志願者数の増加を期待し県外からの志願者の受入れについて柔軟な対応を求める意見もあり、一定規模の生徒数の確保を前提とした教育の質の保証と併せて、県外からの志願者の受入れの条件等についても検討が求められている。

なお、高等学校長へのアンケートでは、県外からの志願を原則として保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由がある場合に限りとしていることについて、「一家転住を原則とすることを維持した方がよい」の回答が10.9%、「家族の誰かが一緒、生徒だけの転住を認めてもよい」の回答が89.1%となっている。

※ 体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系及び芸術学系については、50%以内としている。

2 地域の将来を担う人材の確保

少子化に伴い、中学校卒業予定者が減少していく中で、現状の学校数のまま募集学級数の減を図っていくと、平成 37 年度には 1 校当たりの平均学級数は約 2.90 学級となることが予測され、多くの学校が小規模化することになる。

新たな県立高等学校再編計画では、魅力ある学校づくりの推進や教育の質の保証と機会の保障等を柱とし、ふるさとを守る人材を本県の高校教育で育成することを目指しており、県教育委員会では産学官の連携による人材育成や学校・学科の魅力づくりに向けた地域の取組との連携等その実現に努めているところであるが、地域によっては高校への入学者の確保がより一層困難な状況になること等が予想される。

全国的にも少子化が進み中学校卒業予定者数が減少傾向にある中で、地域や学校・学科の特色を生かし、自治体と高校が連携して全国から生徒の受入れに取り組んだ結果、入学者の増加につながった事例もある。

島根県海士町（隠岐諸島の中ノ島にある）の隠岐島前高校（全日制普通科）は、少子化により、平成 20 年度に全学級 1 学級となった。海士町ほか 2 町村では高校等と連携して島前高校魅力化プロジェクトを立ち上げて、地域を担う人材を育成する魅力ある教育環境作りに取り組み、島内からの進学者の増加を図ると同時に、島外からも積極的に意欲ある生徒の募集を行った。高校の魅力化、特色化の取組等により入学者は増加し、平成 24 年度からは 1 学級増の 2 学級の募集となっており、平成 29 年度には 25 人（一家転住者を除く）が県外から入学している。

また、福島県只見町では、平成 14 年度から山村教育留学制度により町が身元引受人となって学区外、県外から只見高校（全日制普通科）に入学する生徒を受け入れており、平成 25 年度以降、毎年度 10 人以上を山村教育留学生として受け入れている。

本県では、葛巻町が「くずまき山村留学生」として葛巻高校に入学を希望する生徒に、町内にある宿泊施設を学生寮として提供する等、生徒の生活環境を整えていることから、平成 27 年度から県外からの志願を特別に認めており、平成 29 年度までの 3 年間で 6 人が入学している。

県外の生徒の受入れについては、全国の半数以上の道県で全国募集として実施しており、多くの県外からの生徒を受け入れている例がある一方で、志願者がいない等、生徒の確保が難しい例もある。本県でも県外からの志願を特別に認めている高校の中には、県外からの志願者が数年間いない状況も見られる。

なお、高等学校長へのアンケートでは、県外からの志願者を認めることについて、「環境を整えば認めたい」の回答が 78.1%となっており、「安心して生活できる住居」、「毎日の食事」が環境として必要とする回答が多くなっている。

3 今後の方向性

(1) 県外からの志願者の受入れの効果や課題として、どのようなことが考えられるか

ア 考えられる効果

- (ア) 県外から学ぶ意欲の高い生徒が入学することにより、高校の活性化につながる
- (イ) 県外から入学する生徒との交流をとおり、県内の生徒が刺激を受け、地域の魅力を再認識
- (ウ) 県外から入学した生徒が、本県の自然や文化、地域の取組等に魅力を感じ県外で発信することで、本県の魅力を全国に知ってもらうきっかけになる
- (エ) 県外から入学する生徒の家族等を含め、交流人口の拡大や移住等につながり、地域が活性化する

イ 考えられる課題

- (ア) 一律に受入れを認めると県内の生徒が学ぶ機会を失う可能性がある
- (イ) 保護者に代わって生徒を保護する者が必要となる
- (ウ) 生徒を受け入れる生活環境等の整備が必要となる

(2) 課題を解決し、効果を高めるために、どのようなことが必要か

※ () 内は、アンケート項目等から引用

- ア 入学できる学校、学科等を指定する（ふるさと振興に取り組む地域の学校、特色ある学科等）
- イ 入学できる生徒を一定数とする（募集定員の一定割合、受け入れる人数等）
- ウ 入学する生徒の保護者に代わる身元引受人がいることとする（近隣の市町村に居住する親族、市町村が紹介する里親等）
- エ 入学する生徒が安心して生活できる住居等が整備されていることとする（寮や下宿等がある、毎日の食事が保証されている等）

参 考 資 料

- 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する市町村
教育委員会との意見交換における主な意見 …………… 参考資料No.1

- 県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況 …… 参考資料No. 2

- 県内中学生の県外高校への進学状況及び県内公立・私立高校への県外
からの入学状況 …………… 参考資料No. 3

- 県内高校の運動部・文化部の設置状況 …………… 参考資料No. 4

- 県外生徒の受入れに関する全国の状況 …………… 参考資料No. 5

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する 市町村教育委員会との意見交換実施結果

1 意見交換実施期間

平成29年7月18日(火)～平成29年8月29日(火)

2 実施方法

意見交換会(教育事務所単位)または市町村教育委員会への個別訪問

3 意見交換項目

- (1) 県外からの入学志願者の受入れについて
 - ア 受入れを認めるかどうか
 - イ 受入れの条件
- (2) 通学区域のあり方について

4 意見の状況(全体)

- (1) 県外からの入学志願者の受入れについて
 - ア 受入れを認めるかどうか

	項目	件数	割合
①	受入れを認める(条件付きを含む)	20	60.6%
②	受入れを認めない	0	0.0%
③	受入れに反対ではないが様々な課題がある	5	15.2%
④	その他	2	6.1%
⑤	意見なし	6	18.2%
		計 33	

イ 受入れの条件

	項目	件数
①	定員割れしている学校	4
②	部活動	8
③	特色ある教育活動	3
④	地域のバックアップ	5
⑤	その他	2
		計 22

- (2) 通学区域のあり方について

	項目	件数	割合
①	現状維持	9	27.3%
②	全県一区	5	15.2%
③	その他	6	18.2%
④	意見なし	13	39.4%
		計 33	

5 意見の要旨(ブロック毎)

- (1) 盛岡ブロック(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	2
	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	4
	県外からの入学志願者を受け入れることにより、県内の中学生が入学できないことになることは好ましくないことから、欠員を生じている学校に限定する	3
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	3

(盛岡ブロックのつづき)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	地域の特性を生かした特色ある教育活動、学科編制、学校運営等を行っている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
	不登校や不適應の生徒も受け入れるのかどうか議論が必要	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であるとする	1

(2) 岩手中部ブロック (花巻市、北上市、西和賀町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	3
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であるとする	2
	通学区域を全県一区とすると、経済力のある者や交通の便が良い地区に住む者のみが流出する(恩恵を得る)こととなり、望ましいことではないとする	1

(3) 胆江ブロック (奥州市、金ケ崎町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	2
	受入れの条件の検討においては、伝統芸能に力を入れている学校もあることから、そのような学校の特色も考慮したい	1
	不登校や不適應の生徒も受け入れるのかどうか議論が必要	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	通学区域を全県一区としたとしても、あまり大きな影響はないとする	1

(4) 両磐ブロック (一関市、平泉町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを検討することはよいが、地域外への流出を防止する対策も併せて検討する必要がある	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	同じ通学区域の中でも入学志願者が集まる地域と集まらない地域がある	1

(5) 気仙ブロック (大船渡市、陸前高田市、住田町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを可能とする制度にしたとしても、実際に県外からの入学者を集めるためには、その学校において相当な魅力がないと難しい	1
	東北本線沿いと沿岸部等の過疎地域とでは地域事情が大きく異なるので、生徒の多様な受入れのあり方の検討においては、その点も考慮して進めてほしい	1

(6) 釜石・遠野ブロック (遠野市、釜石市、大槌町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	1
	県外からの入学志願者を受入れたとしても、将来に渡って、現在の学校規模を維持することは困難であるし、さらには学校の存続自体が危ぶまれる。生徒の多様な受入れのあり方の検討においては、学校を存続させるという観点ではなく、「学び」をどのように残していくのかという観点で検討していく必要がある。	1
	県外からの入学志願者を受け入れることにより、県内の中学生が入学できないことになることは好ましくないことから、欠員を生じている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	学校選択の可能性を拡げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1

(7) 宮古ブロック (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	1
	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	3
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	3
	地域の特性を生かした特色ある教育活動、学科編制、学校運営等を行っている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	目的意識がしっかりしている生徒は学区外の枠がなくても動揺しないと考える	1
	盛岡地区の学校への進学を目指す生徒は学区外許容率の枠について関心が高い	1

(8) 久慈ブロック (久慈市、洋野町、野田村、普代村)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	1
	県外からの入学志願者の受入れを可能とする制度にした場合、受け入れる各市町村(学校)は支援内容面だけの競い合いになってしまい、本来重視すべき、地域や学校の魅力づくりが後回しになってしまうことが懸念される	1
	県外からの入学志願者を受け入れるためには、市町村による取組と学校による取組が必要であり、また持続可能な取組とする必要がある	1
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	2
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であるとする	1
	学校選択の可能性を拡げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1
	通学区域を全県一区としたとしても、あまり大きな影響はないと考える	1
	学業や部活動に高い意欲をもって通学区域外の高校を志望する生徒について、通学区域外許容率の枠に縛られないことが望ましいが、市町村としては地域の高校に進学してほしいと考えることから、難しい問題である。	1

(9) 二戸ブロック (二戸市、軽米町、九戸村、一戸町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	2
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	学校選択の可能性を拡げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1
	市町村の状況が異なることから、県内の全高校に共通した議論とすることはできない。議論する対象は、過疎地の小規模校等、特殊な状況におかれている学校に限るのではないかと。	1

県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況
(葛巻高校、水沢農業高校、種市高校)

[葛巻高校] (普通科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳				県外
				葛巻町	久慈市	岩泉町	その他	
H27	80	48	▲32	36	5	3	3	1
H28	80	41	▲39	30	3	4	1	3
H29	80	51	▲29	29	10	7	2	3

[水沢農業高校] (農業科学科、環境工学科、生活科学科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外
				奥州市	金ヶ崎町	その他	
H27	120	77	▲43	46	9	22	0
H28	120	68	▲52	44	5	19	0
H29	120	59	▲61	39	2	18	0

[種市高校] (海洋開発科)

※ 県境隣接地の中学校からの入学者

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外	
				洋野町	久慈市	その他	青森県※	その他
H27	40	31	▲9	17	6	1	3	4
H28	40	34	▲6	18	3	1	9	3
H29	40	32	▲8	17	1	1	12	1

<参考>

[種市高校] (普通科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外	
				洋野町	久慈市	その他	青森県※	その他
H27	80	52	▲28	25	9	0	18	0
H28	80	46	▲34	28	9	0	9	0
H29	80	32	▲48	23	1	1	7	0

県内中学生の県外高校への入学状況及び県内公立・私立高校への県外からの入学状況

1 県内中学生の県外高校（全日制課程）への入学状況

入学年度	公立高校	私立高校	計
H27	75	92	167
H28	72	90	162
H29	85	113	198

2 県内の公立・私立高校の県外からの入学状況

入学年度	公立高校	私立高校	計
H27	82	111	193
H28	93	121	214
H29	80	153	233

※ 県内私立高校
(13校)の入学者

2,291

2,326

2,412

部の設置状況

[全日制] 〈運動部〉

(☆男子のみ ○男女 ◇女子のみ)

学校名	主な部活動															その他			
	硬式野球	弓道	剣道	柔道	サッカー	バレーボール	ハンドボール	ラグビー	水泳	スキー	ソフトテニス	卓球	硬式テニス	登山(山岳)	バスケット		バドミントン	陸上	体操(新体操)
盛岡第一	☆	○	○	○	☆	○	☆	☆	○		○	○	○	○	○	○	○	○	☆軟式野球
盛岡第二						◇	◇				◇	◇	◇		◇	◇	◇	◇	◇なぎなた
盛岡第三	☆	○	○	○	☆	○	○	☆	○	○	○	○	○		○	○	○	◇	ボート、空手、スケート
盛岡第四	☆		○	○	☆	○	○		○		◇	○	○	○	○	○	○		
盛岡北	☆		○	○	☆	○		☆	○		○	○	○		○	○	○	○	
盛岡南	☆		○	○	☆	○	○	☆	○	○	◇	◇	○	○	○	○	○	☆	ボクシング
不来方	☆	○	○	○	○	○	○	☆	○		○	○	◇		○	○	○		ホッケー、カヌー、空手
盛岡農業	☆	○		○	☆	☆				○	○	◇	○		○	○	○		相撲、自転車、スケート
盛岡工業	☆			○		○		☆	○		○	○	○	☆	○		○		ウエイトリフティング、アーチェリー、レスリング、スケート
盛岡商業	☆	○	○	○	☆	○	○		○		○	◇	○		○	○	○		☆軟式野球
沼宮内	☆		○		☆						◇	○			◇				ホッケー
葛巻	☆				☆	◇					◇	○			○	○			柔剣道
平舘	☆				☆	◇				○	○			○	○		○		☆相撲
雫石	☆				☆	◇				○	☆				☆	○	○		ボート
紫波総合	☆	○	○	○	☆	○	○				○	◇	○		○		○		自転車
花巻北	☆	○	○	○	☆	○	○		○		○	◇	○		○	○	○		アーチェリー
花巻南	☆	○	○		☆	◇	○		○		○	◇	○		○		○	◇	
花巻農業	☆	○		○		◇	○				○	◇	○			○	○		ボクシング
花北青雲	☆			○	○	○					○	◇	○			○	○		
大迫	☆	○				◇					○								自転車
黒沢尻北	☆	○	○	○	☆	○		○	○		○			○	○	○	○		
北上翔南	☆	◇	○		☆	○	◇				○	◇	○		○	○	○	◇	フェンシング
黒沢尻工業	☆	○	○	○		☆		☆	○		○		○	☆	☆	○	○		軟式野球、ボクシング、ボート
西和賀	☆					◇					◇	○				○	○		ボート
水沢	☆	○	○	○	○	○	○	☆	○		○			☆	○	○	○		ウエイトリフティング
水沢農業	☆		○		☆	◇					◇	○			☆	○	○		ボクシング、自転車、乗馬
水沢工業	☆		○	○	☆	○	☆				○			☆	☆		○		ボクシング
水沢商業	☆	◇				◇					○	◇	○		○	○	○		
前沢	☆					◇					○				○	○			☆ウエイトリフティング
金ヶ崎	☆	○	○		☆	◇					○	○			○		○		
岩谷堂	☆	○	○	○	☆	○					○	◇	○		○	○	○		ウエイトリフティング

学校名	主な部活動														その他				
	硬式野球	弓道	剣道	柔道	サッカー	バレーボール	ハンドボール	ラグビー	水泳	スキー	ソフトテニス	ソフトボール	卓球	硬式テニス		登山(山岳)	バスケット	バドミントン	陸上
一関第一	☆	○	○	○	☆	○		○		○	◇	○		○	○	○	○		☆軟式野球
一関第二	☆	○		○	☆	○		○		○	◇	○			○	○	○		フェンシング
一関工業	☆	○		○	☆	○	○	☆		○		○			○		○		
花泉	☆	☆													☆	○			
大東	☆	○			☆	○				○	◇	○			○	○	○		
千厩	☆	○	○	○	☆	○				○	◇	○		☆	○	○	○		ボクシング
高田	☆		○	○	☆	○		○		○	◇	○			○		○		
大船渡	☆	○		○	☆	○		○		○	◇	○			○	○	○		空手
大船渡東	☆	○	○	○	☆	○	○			○		○			○		○		
住田	☆					◇					◇				☆		○		アーチェリー
釜石	☆	○	○		○	○	☆	○		○	◇	○			○	○	○		○ボクシング○空手
釜石商工	☆	○			☆	○	☆			○					○	○	○		空手◇なぎなた
遠野	☆	○	○		☆	○		○		○	◇				○	◇	○		
遠野緑峰	☆				☆	◇											○		
大槌	☆	○		○	○	◇					◇		☆		○	○			
山田	☆				☆	◇					◇				◇		○		空手、☆相撲、ボート
宮古	☆		○	○	○	○	☆			○	◇	○			○		○		ボート、ヨット、空手
宮古北					☆							☆				○			総合運動 (サッカーはフットサル)
宮古工業	☆	○	○	○	☆	○	☆			○		○			○		○		
宮古商業	☆		○	○	◇	◇				○	◇	◇			○		○		ヨット、レスリング
宮古水産	☆	◇		○		◇				○		◇			○	◇			ボクシング、マリンスポーツ
岩泉	☆	○			☆	◇				○		○			◇		○		ボクシング
久慈	☆		○	○	☆	○	☆			○	◇	○			○	◇	○		
久慈東	☆	○	○	○	○	○				○	◇	○			○	○	○		
久慈工業	☆			☆			☆			○		○			☆				ウエイトリフティング
種市	☆					○				○		○			◇	◇	○		レスリング
大野	☆				☆	◇				○		○			○				
軽米	☆		○		☆	◇				○		○			○		○		
伊保内	☆	○				○				○		○			☆				
福岡	☆	○	○	○	☆	○		○		○	○	○			○		○		
福岡工業	☆	○		○	☆		☆					☆	☆		☆				
一戸	☆	◇	○	○		○					◇	◇	○		○		○		◇なぎなた

[全日制] 〈文化部〉

学校名	主な部活動												その他	
	囲碁将棋	語学・国際理解など	演劇	音楽	科学(自然科学)	軽音楽	茶道	華道	写真	書道	吹奏楽	文芸・文学研究など		美術・芸術など
盛岡第一	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	物理、化学、生物、天文
盛岡第二	◇	◇	◇	◇			◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇箏曲、◇マンドリン・ギター、◇生物、◇JRC
盛岡第三	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	
盛岡第四	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	弦楽、バトントワリング
盛岡北		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	家庭研究
盛岡南				◇	☆	○	○		○	○	◇		○	家庭、放送演劇
不来方		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	工芸
盛岡農業	○		○				○	○	○	○			○	
盛岡工業	○		○				○	○			○	○	○	無線、化学、マイコン、天文、自動車、ギター 土木、機械、メカトロ、電気、建築、工業化学、デザイン
盛岡商業								○	○	○	○		○	商業研究、ワープロ、情報処理研究
沼宮内	○			○			◇			○	○		○	
葛巻														郷土芸能、ビジネス研究
平舘	○		○				○	○			○		○	◇家庭
雫石						○	◇	◇						コンピュータ、郷土芸能
紫波総合	○		○	○			◇			○	○		○	文化研究、イラスト、郷土芸能、理科研究
花巻北	○	○			○	○	○		○		○	○	○	放送、合唱
花巻南	○	○	○				○	○		◇	○	○	○	家庭、JRC、合唱、日本音楽
花巻農業							○	○			○		○	鹿踊り
花北青雲											○	○		珠算、OA、工学研究、商業研究、PFSC
大迫											○			学芸、JRC
黒沢尻北	○	○	○	○	○	○	◇	◇	○	○	○		○	放送、応援
北上翔南		○	○	○			◇		○	○		○	○	家庭、器楽、パソコン、JRC、鬼剣舞、イラスト
黒沢尻工業	○								○	○	○		○	無線、編集、ボランティア、コンピュータ
西和賀											○		○	
水沢	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	フォークロック
水沢農業							○				○			民族舞踊、インターアクト、芸術文化
水沢工業											○		○	機械工作、無線・情報、新聞
水沢商業							○				○		○	ワープロ、珠算電卓
前沢							○				○		○	総合文化、JRC
金ヶ崎											○		○	
岩谷堂		○	○				○	○	○	○	○		○	ワープロ、アニメーション、鹿踊り、JRC、家庭
一関第一	○	○		○		○	○		○	○	○	○	○	生物、競技歌留多、パソコン
一関第二		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	理科研究、JRC、太鼓道場、商業研究
一関工業	○								○				○	無線、放送、情報技術研究、工学研究、生活
花泉				◇			◇							○総合文化
大東			○	○			○	○			○		○	ワープロ、アニメイラストマンガ鹿踊り
千厩			○	○			○		○	○			○	箏曲

学校名	主な部活動											その他	
	囲碁将棋	語学・国際理解など	演劇	音楽	科学(自然科学)	軽音楽	茶道	華道	写真	書道	吹奏楽		文芸・文学研究など
高田				○			○			○	○	○	パソコン、JRC、家政
大船渡	○		○	○	○	○	○			○	○	○	パソコン、報道、JRC
大船渡東							○	○		○	○	○	太鼓、ロボット、インターアクト、ビジネス
住田				○							○		パソコン
釜石	○			○	○						○	○	
釜石商工							◇	◇	○		○	○	ワープロ、工業
遠野				○			◇			○	○	○	商業、邦楽、理研
遠野緑峰							○	○	○	○	○	○	馬事研究
大槌					○					○	○	○	OA、インターアクト
山田							○	○		○	○		パソコン
宮古				○			○	○		○	○	○	生物、放送
宮古北							◇	◇	○		◇	○	総合文化
宮古工業	○											○	工作
宮古商業							○		○	○	○	○	JRC、家政、ワープロ、インターアクト、商業研究、太鼓
宮古水産							○	○	○	○	○		太鼓、パソコン、料理手芸、インターアクト
岩泉											○	○	家庭研究、郷土芸能
久慈			○	○	○	○	○				○	○	マンドリン
久慈東	○						○	○	○	○	○	○	チアダンス、コンピュータ、手芸
久慈工業											○	○	工学研究、料理
種市		○					○				○		家庭、情報処理
大野					○						○		総合文化
軽米				◇						○	○	○	
伊保内											○	○	郷土芸能
福岡	○	○	○	○			○			○	○	○	百人一首、理科研究
福岡工業													○総合文化
一戸				○	○		○	○		○	○	○	華一

県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国状況

※ 都道府県教育委員会への調査をもとに、学校調整課で作成

1 全国募集を実施している高校がある都道府県（岩手県を含む）

27 道県

岩手県、北海道、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、石川県
長野県、岐阜県、静岡県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県
広島県、山口県、徳島県、高知県、長崎県、熊本県、鹿児島県

2 全国募集を始めた主な背景等

- ・ 少子化が進行する中で、教育活動の活性化を推進
- ・ 小規模化する学校の活性化と、地方創生の実現
- ・ 募集定員の確保
- ・ 特色ある学校、学科で学びたい生徒のための学ぶ機会の拡大
- ・ 地場産業を教育資源として活用した教育活動の展開
- ・ スポーツを通じた学校や地域の特色化・活性化に貢献できる人材の育成
- ・ 意欲があり、進路意識の高い生徒が県外から入学し、県内生徒と切磋琢磨することによる学校の活性化

3 全国募集の主な条件等

- (1) 全国募集をする学校を指定し、保護者に代わる身元引受人が学区内や県内にいることで受け入れ可能とする

(例) 福島県：川口高校、南会津高校、只見高校の3校（普通科）については、学区内に身元引受人が居住すること、ふたば未来学園高校（総合学科）については、県内に身元引受人が居住することを条件としている。

- (2) 県立高校の全学科で、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする

(例) 秋田県：前期選抜試験で各学科の募集定員の5%を上限としている。（前期選抜試験の募集定員は学校ごととなっている。）

熊本県：募集人員の5%以内で県外からの入学生を認めている。なお、平成30年度からは、球磨工業高校（建築科・伝統建築コース 募集定員の20%以内）、八代農業高校泉分校（グリーンライフ科 募集定員の10%以内）、菊池農業高校（畜産科学科 募集定員の20%以内）の3校で全国募集を開始する。

(3) 全国募集をする学校と学科、特定の部活動を指定し、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする

(例) 栃木県：日光明峰高校（普通科）については、アイスホッケー、スピードスケート競技での活躍を目指す者を条件とし、募集定員の20%以内としている。他に、馬頭高校（水産科）でも、全国募集をしている。

奈良県：御所実業高校の5学科（環境緑地、機械工学、電気工学、都市工学、薬品科学）では、ラグビー部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者を条件とし、募集定員の10%を上限としている。また、薬品科学科では、学科に対して強い目的意識がある者を条件とした募集も併せて行っている。他には、山辺高校（普通科、生物科学科）、榛生昇陽高校（普通科 人間探究コース）、十津川高校（普通科 工芸コース）でも全国募集をしている。

4 全国募集の主な課題

- ・ 寮や下宿等、生徒が居住する場所の確保
- ・ 宿舎等での生徒の健康管理や生活指導等
- ・ 寮を整備運営している地元自治体の経済的負担
- ・ 県に宿舎の確保等を求められることによる財政支援のあり方
- ・ 全国募集に関するPR方法
- ・ 小規模校の特色化を推進するに当たっての地域の協力態勢の維持
- ・ 志願者がいない高校や、年度により志願者の偏りがある